YAMAGA

近代の山鹿の偉人たちシリーズ 013

熊本県初の参議院議長（一八八三～一九六二）

松野鶴平（まつのつるへい）

第五代～第七代の参議院議長。大正九年から衆議院議員に連続七回当選。政友会鳩山（はとやま）派に所属し、内務政務次官、政友会幹事長、鉄道大臣などを歴任。昭和七年の総選挙では選挙参謀（さんぼう）を務め、四百六十六議席中、政友会議員三百四人を当選させ、「選挙の神様」と称される。

戦後は日本自由党結成に参加し党の要職に就任。昭和二十七年公職追放が解除され、その後、参議院議員に三回当選し、参議院議長に就任。吉田派と鳩山派の抗争では仲裁役を務め、昭和三十年の保守合同の立役者となる。

「自分は母の胎内（たいない）にあった時からの政党人」として議会政治に尽くした。

従二位勲一等旭日桐花大綬章（きょくじつとうかだいじゅしょう）を受章する。

前列右から鶴平、妻タキノ、母ソノ（昭和 12 年ころ）

生い立ち

松野鶴平は、明治十六年（一八八三）十二月二十二日に、松野長八、ソノの長男として、菊池郡城北村木野（現、山鹿市菊鹿町木野）で生まれました。名前は、「松に鶴」というめでたい語呂合せにちなんで「鶴平」と名付けられました。

鶴平が生まれたところは、現在、山鹿市の東部に位置し、自然豊かな田園の広がる美しい土地で、近くには国指定の「鞠智城跡」があります。また、生家の近くには大同二年（八〇七）に山城国（現、京都市）から勧請したという松尾神社があります。

松野家で酒造業を始めたのは明治二十年（一八八七）以後で、最初は「宝舟」の名前で地酒として地元を中心に販売していました。その後、筑後の専門家の技術指導でいい酒ができるようになり、販売を広げ資産も増えました。父の長八は村の旦那衆として、明治三十一年（一八九八）に村会議員となり、その後、城北村の村長になっています。

明治末期、新しく造った酒を福岡市で開かれた清酒品評会に出品したところ、一等賞に選ばれました。村長の江藤寛治が、この清酒の名前を考えることになり、「松」の字を分解して「十八公」と名付け、菊池・鹿本地方を中心に広く販売しました。酒造りは、昭和十七年（一九四二）に、戦争による国の企業整備で醸造を中止するまで、松野家の家業として続きました。

少年期

鶴平は、明治二十三年（一八九〇）四月、六歳のときに木野尋常小学校（四年制）へ入学し、卒業後、明治二十七年（一八九四）鹿本郡来民町（現、山鹿市鹿本町）の城北学館に進学しました。城北学館からは、経済学博士の牧野輝智や放浪の歌人宗不旱などの人物も出ています。

明治二十九年（一八九六）、十二歳のとき、城北学館を二年でやめて家業に専念しました。その頃から、日清戦争後の好景気がはじまり、酒もよく売れるようになり、松野酒造の経営も良くなりました。父長八は、商売にも余裕が出て、仕事は鶴平がやってくれるので、明治三十一年（一八九八）に城北村の村会議員になりました。

鶴平は、父親の影響で政治についても早くから興味をもっていました。当時、政治家には弁護士出身が多かったので、政治家に

なるためにまず法律学校へ行き、弁護士になってからという夢を描いていました。しかし、父はこの考えを認めず「弁護士のなりそこないは使いもんにならん」と許しませんでした。

生家

青年時代

鶴平は、知恵と胆力、健康に恵まれた農村青年として、スケールの大きい青春の日々を過ごしています。

17 歳のころ（明治 34 年）

22 歳のころ（明治 39 年）

松尾神社の大祭のときには奉納相撲が開かれ、近隣各地から腕に自慢の若者が大勢押しかけました。

相撲がものすごく強かった鶴平は、いつも大関格で、背丈は低かったけれど敏捷な身のこなし、腰技の強い攻撃一点張りの相撲で、度々優勝しました。しかし、ある時相撲の稽古をしていて、仲間の青年を投げ飛ばし気絶させてしまいました。鶴平は、それ以後、相撲をぴったり止めてしまいました。

鶴平の若い頃を知る人たちは「度胸のいい男だった」といいます。小さい時から知力・体力ともに人に優っていたので、万事について自信を持っており、その自信が胆力を生んだのだろうといわれています。

水車精米所を経営

鶴平は、少年の頃から父の代理として、酒造米の買付けに当たっていて、自然に米についての知識も豊富になり、良質米の鑑定も上手でした。

彼は、買い入れた酒造米の精米のため、菊池郡砦村（現、菊池市七城町）の水次橋の近くにある大規模な精米所に出入りしていました。その精米所は、木製の何倍もある大きな鉄製の水車をたくさん持っていましたが、経営難におちいり、休業状態でした。

鶴平は、この休業中の水車と、明治三十七年（一九〇四）二月に始まった日露戦争により米の需要が急増し、門司港から船で大量の軍用米の積出しが行われていることに目をつけました。彼は、必死になって資金集めに走り回り、どうにか精米所を始めることができました。その後、米の売込みのために、日本郵船の門司支店に通い、値段の交渉には随分と苦労しましたが、とにかく押しの一手で大取引は見事に成功し、大儲けをしました。

政治家に

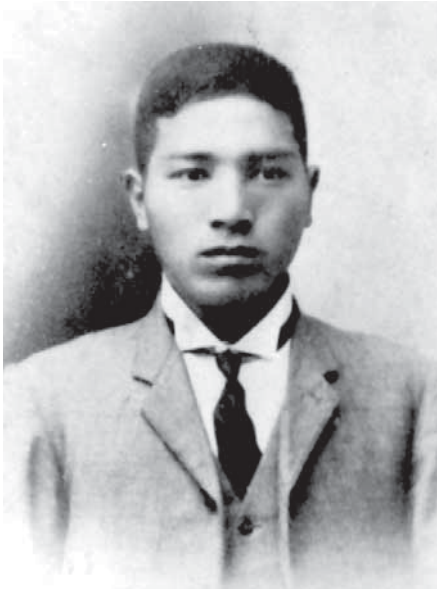
鶴平は、明治四十一年（一九〇八）八月、二十四歳のとき、福岡県三池郡岩田村（現、福岡県みやま市）の野田卯太郎の長女タキノと結婚しました。野田卯太郎は、福岡県選出の代議士で、政友会の大物政治家でした。

鶴平は、明治四十三年（一九一〇）に政治家を志し、政友会熊本支部に入り、政治生活の第一歩を踏み出しました。

大正七年（一九一八）、わが国最初の平民宰相である原敬により、明治以来の自由民権運動が目標とした単独政党内閣が樹立しました。鶴平は、政友会から衆議院議員に立候補し、一回めは僅差で落選しましたが大正九年（一九二〇）三十六歳のとき初当選しました。

翌年、原敬首相は東京駅で暗殺され、その後は高橋是清、加藤友三郎、山本権兵衛、清浦奎吾と内閣が変わっていきました。清浦奎吾は、鹿本町来民（現、山鹿市鹿本町来民）の出身で、熊本県で初めて総理大臣になりました。

しかし、貴族院で構成された清浦内閣は特権内閣と批判され、


23 歳のころ（明治 40 年）

さらに政友会は分裂し、その後の総選挙で鶴平は落選してしまいました。

鶴平は、昭和三年（一九二八）四十四歳のとき、田中義一内閣のもと、初めて行われた普通選挙による衆議院選挙で当選し、政界に復帰しました。彼は政友会の幹事長となり、昭和七年（一九三二）の衆議院総選挙のときには、選挙参謀を務め、四百六十六議席の内、政友会議員を三百四名も当選させ、「選挙の神様」と言われました。

その後、鶴平は、藩閥政府のような独裁権力への反抗と、人間の平等解放という精神を大切にし、この後相次ぐ政友会の分裂騒ぎには、いつも権力へ近づこうとする官僚系の妥協派と戦い、あえて少数野党派に止まり、自由党以来の政友会の伝統を守っていきました。

30 歳のころ（大正初期）

鉄道大臣

昭和十五年（一九四〇）、米内光政内閣の鉄道大臣に就任しました。鉄道に関しては素人でしたが瞬く間に業務に精通し、的確・迅速な決断力と円満な人柄で厚い人望を得ました。静岡市の大火災で静岡駅が全焼し、東海道線が大混乱したときには、すぐ

に現場へ赴き、迅速な処理で復興を果たし「新大臣の手腕鮮やか」と新聞で賞賛されました。

米内内閣は、軍部の台頭による陸軍の強い倒閣運動に抗しきれず、在任半年で総辞職しました。

吉田茂首相誕生

日本は、鶴平が鉄道大臣を辞任した頃から急速に軍国主義化が進み、政党は解党し大政翼賛会が発足しました。彼は、昭和十七年（一九四二）の、東条内閣の下での衆議院選挙まで七回当選を続けました。

その間、鶴平は、鳩山一郎、吉田茂とともに、一日も早く戦争終結へ持っていこうとの同じ思いを持っていましたが、沈黙を余儀なくされていました。

昭和二十年（一九四五）八月十五日に戦争が終わり、いくつもの政党が結成されました。翌年一月、連合国軍総司令部（GHQ）によって公職追放が行われ、昭和二十三年五月までの間に約二十八万人が公職から追放されました。

四月に第一回衆議院選挙が実施されることになりましたが、鶴平は、公職追放されていたため選挙には立候補できませんでした。父に替わって三男の頼三が熊本県第一区から立候補し、最高点で初当選しました。頼三は、その後、衆議院議員として長く政界で活躍、防衛庁長官や労働大臣、農林大臣などを歴任し、晩年は、小泉純一郎首相の指南番とも言われました。

昭和 15 年に鉄道大臣に就任

公職追放中の鶴平は、自由党の選挙本部で匿名の選挙長として事実上の指揮をとりました。選挙の結果、自由党が勝利を収め、鳩山一郎が組閣を開始することになりました。しかし、組閣する直前になって鳩山一郎も公職追放になってしまいました。

そこで、吉田茂を総裁へ担ぎ出そうと当時の有力者が説得を試みました。しかし、吉田茂は首を縦に振らず、松野鶴平が説得することになりました。

鶴平は、五月十三日の深夜、外相官邸の塀を乗り越えて邸内に入り、寝ていた吉田茂を起こし、朝まで説得を続けました。その結果、吉田茂は、総裁になることを承諾しました。

五月二十二日に第一次吉田内閣が成立しました。その後、途中で、片山哲内閣や芦田均内閣が成立しますが、昭和二十九年（一九五四）十二月まで五次の吉田茂内閣が続くことになりました。

ちょっとコラム①

●三権分立とは

権力分立は、国政上、三権分立ともいわれる。これは、国家権力を立法権、行政権、司法権の三権に分類し、立法権を立法府、行政権を行政府、司法権を裁判所に担わる。

三権は、法との関係に着目して、簡単に次のように説明される。

立法権・・・法を定立する
行政権・・・法を執行する
司法権・・・法を適用する

立法権は国会に属し（日本国憲法第41条）、国会は衆議院と参議院から成る二院制を採用し、どちらかの院が立法を代表するとされていないため、立法権の長のみ2人存在する。

内閣総理大臣と最高裁判所長官は天皇の任命により就任するが、衆議院議長と参議院議長は天皇の任命なくその職に就任する。

吉田・鳩山抗争の調停役

鶴平は、昭和二十六年（一九五一）八月に公職追放が解除されました。追放解除の挨拶のため熊本に帰ったとき鶴平は、「政治は私の一生の使命である。衆議院は息子頼三がやっているので出馬の意志はないが、中央、地方の別なく実際の世話をやっていくつもりでいる」と語ったそうです。

この頃他の公職追放者も解除され、ワンマン的な吉田茂首相に反対する人たちが増えてきました。自由党内では吉田派、鳩山派の対立抗争が表面化してきました。昭和二十七年（一九五二）八月、通常国会が招集されましたが、吉田茂首相によって、すぐに議会は抜き打ち解散となりました。

十月一日に総選挙が行われ自由党が大勝しますが、鳩山派、吉田派は拮抗し、両派の対立は収拾がつかないまま激化してしまいました。自由党分裂を防ぐため、最後に残された打開の手段は松野鶴平の乗り出しでした。鶴平は、その頃、十月二十日に行われる参議院熊本地方区の補欠選挙に出るため熊本に帰っていました。彼は、衆議院議員を頼三に譲って、長老らしく「良識の府」参議院議員になることにしたのです。鶴平は、選挙運動で県下各地を回り、「子どもから大人までたくさんの人が手を振って迎えてくれたことが非常に嬉しかった。政治というものは常に国民と一心同体でなければならないと痛感した」と語っています。

松野鶴平を東京に呼び戻すために、大野伴睦が熊本まで行って頼みました。鶴平は、十月二十日の参議院選挙後に熊本から東京へ戻り、吉田・鳩山間の調整に乗り出し、その結果、自由党は分裂せず第四次吉田内閣が発足することができました。

翌年の昭和二十八年（一九五三）二月、国会は、社会党の西村栄一議員の質問に対し吉田首相が「バカヤロー」と発言し、これが元で自由党内も分裂し、吉田内閣に対する不信任案が可決され、吉田首相は同日直ちに衆議院を解散しました。これを機に鳩山一郎を総裁とする日本自由党が結成され選挙戦に突入しました。この時、参議院議員選挙と衆議院議員選挙が同時期に行われることになり、参議院議員の松野鶴平と衆議院議員の頼三親子が熊本で共に選挙を戦っています。選挙の結果、かろうじて第五次吉田内閣が成立しましたが、衆議院も参議院も議長は野党に取られてしまいました。

保守合同の立役者

昭和二十九年（一九五四）に鳩山は、三木武吉・河野一郎・岸信介らとともに、吉田に不満を持つ自由党内の同志や野党の改進党などの他の保守系政党と大同団結を図って、日本民主党を結成しました。

一方、残った自由党内でも、吉田の「ワンマン」と称される政

ちょっとコラム②

●衆議院議員

任期は4年で解散の場合には期間満了前に任期は終了する。

衆議院議員の任期は総選挙の期日から起算するが、任期満了による総選挙が衆議院議員の任期満了の日前に行われたときは前任者の任期満了の日の翌日から起算する。

選挙権は20歳以上、被選挙権は25歳以上の日本国民に与えられる。

●参議院議員

任期は6年で解散がなく3年ごとに半数を改選する。

参議院議員の任期は前の通常選挙による参議院議員の任期満了の日の翌日から起算するが、通常選挙が前の通常選挙による参議院議員の任期満了の日の翌日後に行われたときは通常選挙の期日から起算する。

選挙権は20歳以上、被選挙権は30歳以上の日本国民に与えられる。

岸信介首相（右）、佐藤栄作大蔵大臣（中央）と（昭和 34 年）

治手法に対して、国民の不満が高まっていることを感じていました。鶴平は、解散総選挙をもくろむ吉田に対し「党則に背くような総裁は除名してしまえ」と退陣を迫りました。

吉田内閣は敗戦日本の復興と独立に大きな功績を挙げますが、この間に鶴平は、吉田、鳩山の対立のとき二度も吉田を助けています。これは吉田個人のためではなく、議会政治と自由党を守るためでした。政界に吉田茂を引き出したのも鶴平で、引導を渡したのもまた鶴平でした。

ここに至って吉田も内閣総辞職を決断して、自由党総裁を緒方竹虎に譲りましたが、国会での首班指名選挙では鳩山が緒方を破り、第一次鳩山一郎内閣が成立することになりました。

その後は左右社会党が再統一されて日本社会党となり、保守政党にとっては大きな脅威になりました。社会党の脅威に対抗するため、三木や緒方らが保守合同を働きかけました。また、参議院の緑風会は、不偏不党を建前としていましたが、会員の多くは保守系であり、やはり有志という形で保守合同を求める口上書を民主、自由両党に送りました。

保守合同には反対論もあり、その中心人物として旧改進党系の松村謙三、宇都宮徳馬、三木武夫がおり、彼らは保守分立論を唱えました。しかし、最終的に保守合同によって自由民主党が結党され、唯一の保守政党による単独政権が誕生し、昭和三十年（一九五五）に五十五年体制が始まりました。

この保守合同の立役者として松野鶴平が大きくかかわりました。

参議院議長

鶴平は、昭和三十一年（一九五六）四月三日に第五代（四人目）参議院議長に選ばれ、昭和三十七年（一九六二）まで三代続けました。

この間に、日米安保条約調印等で政局が流動化している中で、国会への警察官導入などで議場が混乱していました。

そのような中で議長は党籍を離脱すべきだとの勧告を受けましたが、「私は母親の胎内にいたときからの政党人だ」といって拒否しました。議長としての権威を高めるには、議長が孤立無援になるよりも、多数党の党籍を持っていて、多数党の横暴を内部で抑えるだけの力がなければできないと考え、参議院の独立性保持のため全力を注ぎました。しかしこれは「参議院の政党化」へもつながるものでした。

死去

昭和三十七年（一九六二）に参議院議長を辞任した後は体調が優れず、日本医大病院で十月十八日午前十時十三分に、七十八歳の生涯を閉じました。

十月十九日に従二位勲一等旭日桐花大綬章が贈られました。

鶴平のお墓

年表 History

明治一六年（一八八三）	熊本県菊池郡城北村木野（現、山鹿市菊鹿町木野）にて、松野長八の長男として生れる
明治二三年（一八九〇）	木野尋常小学校に入学する
明治二七年（一八九四）	城北学館に入学する
明治二九年（一八九六）	城北学館を中退し、家の酒造業に従事する
明治三七年（一九〇四）	水次水車精米所を経営。軍用米売込みを行う 徴兵検査乙種合格、歩兵補充兵役編入
明治四一年（一九〇八）	政友会代議士野田卯太郎の長女タキノと結婚する
大正元年（一九一二）	東肥鉄道株式会社取締役就任
大正九年（一九二〇）	衆議院議員初当選
大正一四年（一九二五）	菊池軌道会社社長に就任する
昭和三年（一九二八）	衆議院議員第二回当選
昭和五年（一九三〇）	衆議院議員第三回当選
昭和七年（一九三二）	衆議院議員第四回当選
昭和八年（一九三三）	政友会幹事長に就任
昭和一一年（一九三六）	衆議院議員第五回当選
昭和一二年（一九三七）	衆議院議員第六回当選
昭和一五年（一九四〇）	鉄道大臣に就任
昭和一七年（一九四二）	衆議院議員第七回当選 労務報国会長就任
昭和二一年（一九四六）	公職追放される
昭和二二年（一九四七）	熊本製粉株式会社社長就任
昭和二六年（一九五一）	公職追放解除
昭和二七年（一九五二）	参議院議員第一回当選 自由党総務、党務部長就任
昭和二八年（一九五三）	参議院自民党議員会長 同選挙対策委員長就任
昭和三一年（一九五六）	参議院議員第二回当選 参議院議長に当選
昭和三四年（一九五九）	参議院議員第三回当選 参議院議長三選
昭和三七年（一九六二）	参議院議長を辞任 日本医大病院で永眠 従二位勲一等旭日桐花大綬章を受章する
平成一五年（二〇〇三）	熊本県鹿本郡菊鹿町（現、山鹿市菊鹿町）の名誉町民称号を受章する

近代の山鹿の偉人たち 013
熊本県初の参議院議長 松野 鶴平

平成 22 年 3 月 発行

山鹿市教育委員会 教育部 文化課
〒861-0541 熊本県山鹿市鍋田 2085（博物館内）
TEL 0968 - 43 - 1691

編集委員
竹下輝幸 （山鹿市文化財保護委員会委員長）
平井祥一郎（山鹿市文化財保護委員会委員）

参考文献・ご協力頂いた方（敬称略）
松野鶴平伝
（熊本電気鉄道株式会社 編著者 酒井健亀 昭和 47 年 9 月 15 日発行）
益田公康（山鹿市菊鹿町木野）
平井邦廣（山鹿市菊鹿町木野）